

「若手研究者支援 1 次募集」国際学会発表	
Functions of sex as self-injury (SASI) among Japanese women : A qualitative study	
氏名 横尾 公美	所属 人間発達科学専攻 発達臨床心理学領域
渡航期間 (実際の出発日～ 帰国日)	2026 年 6 月 23 日 ～2026 年 6 月 28 日
活動期間 (学会開催期間、 または実質的な現 地調査の期間)	2026 年 6 月 25 日 ～2026 年 6 月 26 日
学会名	The International Society for the Study of Self-Injury (ISSS) 21st Annual Conference 2026
場所	Campus GIH (The Swedish school of sport and health sciences)
発表者名、 発表形式	Satomi Yokoo, ポスター発表

1. 発表の概要

近年、自傷行為の一形態として性行為を用いる行動に焦点が当てられつつある。例えば、スウェーデンでは、Sex as self-injury (SASI) という概念の研究が進められている。日本では、自傷としての性行為に関する研究は極めて少なく、当事者がどのような心理的背景や目的のもとでそのような行動を行うのかについて十分に検討されていない。

本研究では、日本人女性の自傷としての性行為の機能を明らかにすることを目的として、5名の日本人女性を対象に約 60-90 分間の半構造化インタビューを行い、テーマ分析を用いて分析した。分析の結果、自傷としての性行為では、感情調整や自己認識との関連だけでなく、他者との関係性の中で生じる機能も存在することが示唆された。本研究は、日本における自傷としての性行為に関する基礎的な知見を提供するものであり、国際的な研究動向との比較検討を行うとともに、発表者の専攻する臨床心理学だけでなく幅広い観点からのフィードバックを得るため、自傷行為を扱う国際学会においてポスター発表を行った。

2. 学会参加により得られた成果

本発表を通して、自傷行為を専門とする研究者との意見交換を行うことができた。文化的背景との関連や概念の位置づけなどについて幅広く議論をする機会を得ることができ、本研究をより広い文脈の中で捉えるための視点を得た。また、今後開催される自傷としての性行為の概念化に関する研究ミーティングにも参加させていただけることとなった。特に、本学会で開催された SASI に関するワークショップへの参加は大きな学びとなった。ワークショップでは、自傷としての性行為をどのように概念化し理解するかについて活発な議論が行われ、本研究を国際的な研究動向の中に位置づける視点を得ることができた。

3. 今後の展望

本学会で得られた成果は博士論文の一部として発展させる。また、学術誌へ投稿する準備を現在行っている。今後は分析をさらに精緻化し、日本における自傷としての性行為の特徴や機能について検討を進める予定である。本学会で構築した研究者とのネットワークを生かし、国際的な研究動向を継続的に把握しながら、日本における概念化について研究を進めることで、国内外の知見を統合した研究へと発展させることを目指す。

よこおさとみ／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 人間発達科学専攻

- ・ 英文タイトル Functions of sex as self-injury (SASI) among Japanese women : A qualitative study
- ・ 英文氏名 Satomi Yokoo
- ・ 英文発表者 Satomi Yokoo, Keiichiro Ishimaru